

「推し」活動が人の健康に及ぼす影響

Influence of the act of supporting one's favorite on one's well-being

原田 祐理花¹⁾ 小松 優衣¹⁾ 加納 里梨¹⁾ 吉村 耕一¹⁾

HARADA Yurika¹⁾, KOMATSU Yui¹⁾, KANO Riri¹⁾, YOSHIMURA Koichi¹⁾

要約

本研究では、「推し」活動の影響を明らかにするために、オンラインアンケートを実施し、得られた172件の回答を分析対象とした。対象者の約3/4が、「推し」活動をするようになってから、健康感並びに自己肯定感が向上したと感じていた。また、「推し」活動に時間やお金のある程度かけた方が健康感や自己肯定感への影響が大きかった。本研究の結果から、「推し」活動を行うことによって健康を高める効果がもたらされることが明らかになった。

キーワード：推し、推し活動、健康、健康感、自己肯定感

Abstract

An online questionnaire was administered to 172 people to clarify the influence of the act of supporting one's favorites. The data revealed that approximately three-fourths of the respondents felt an improvement in subjective health and self-esteem after beginning to act to support their favorites. In addition, spending time or money on supporting one's favorite had a great influence on subjective health and self-esteem. Our findings indicate that the act of supporting one's favorites can enhance one's well-being.

Key words : Favorite, Act of supporting one's favorite, Well-being, Subjective health, Self-esteem

1) 山口県立大学看護栄養学部看護学科

1) Department of Nursing, Faculty of Nursing and Human Nutrition, Yamaguchi Prefectural University

1. はじめに

最近、多くの人々がそれぞれの「推し」を持ち、「推し」を応援する活動（「推し」活動）をする時代になっている^{1),2)}。また、第164回芥川賞に『推し、燃ゆ』が選ばれたことでも、「推し」というワードに注目が集まっている。「推し」とは、特定の人物に対して情熱をささげて応援したいと思い、強い愛着と行動を示すことである。元々は2011年頃に一部の女性アイドルグループのファンが使う「グループの中での自分の一番お気に入りのメンバー」を指す専門用語であったが、現在では、女性アイドルグループに限らず男性アイドル、YouTuber（ユーチューバー）、スポーツ選手のファンにまで拡大し「同種のものの中で一番好きな人」という意味合いで広く用いられるようになった¹⁾⁻³⁾。

「推し」が人生を豊かにするという情報や、「推し」の存在が自分の心の支えになるという情報が、テレビやインターネットなどの様々なメディアからたくさん発信されている³⁾。しかしながら、「推し」活動が人の健康に及ぼす影響に関する学術的根拠はあまり知られていない。本研究では、「推し」活動が身体的・精神的な健康にプラスの影響を及ぼすか否かを、アンケート調査によって明らかにすることを目的とした。

2. 方法

1) 対象と調査方法

2021年4月から2021年9月までの期間に、Google フォーム（Google社）を使った無記名オンラインアンケート調査を実施した。全体で207件の回答が得られ、この内、現在「推し」がいる人の172人分の回答を、分析対象とした。

調査内容は、属性（性別、年齢）、「推し」の有無、「推し」活動の状況（ジャンル、対象の人数、費やす時間と費用）、「推し」活動の自己肯定感（意欲・自己効力感と充実感を含む）並びに健康感（身体的健康、精神的健康と社会的健康を含む）への影響とした。自己肯定感への影響の質問6問と健康感への影響の質問7問については、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらともいえない」、「ほとんどあてはまらない」と「あてはまらない」の5段階で回答を求めた。本研究は、山口県立大学生命倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号：2021-6号）。

2) 解析方法

各質問項目の単純集計を行った。「推し」活動の状況に関する項目と「推し」活動の自己肯定感と健康感への影響との関連性については、クロス集計を行い、SPSS Statistics Ver.22を用いてピアソンの χ^2 検定により有意差の統計学的検定を行い、有意水準は両側検定5%とした。なお、クロス集計の際には、「推し」活動の自己肯定感と健康感への影響の5段階の回答の内、「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して「あてはまる」、「ほとんどあてはまらない」と「あてはまらない」を統合して「あてはまらない」とし、全部で3区分とした。同様に、「推し」の人数、費やす時間と費用の6段階の回答については、選択肢を統合して全部で2区分または3区分として解析した。

3. 結果

1) 「推し」活動の状況

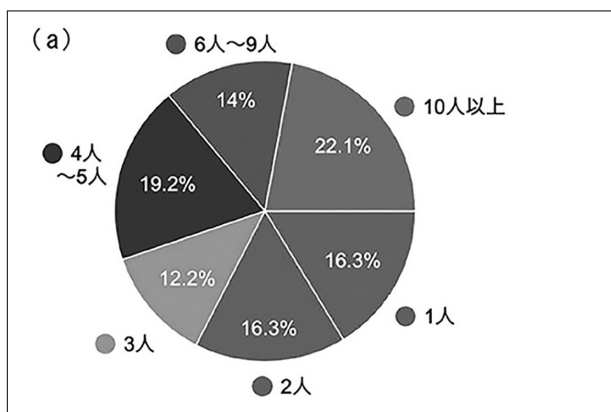
対象172人の内訳は、男性26人（15.1%）、女性142人（82.6%）、無回答4人（2.3%）であった。10歳代が75人（43.6%）、20歳代が93人（54.1%）、30歳代が3人（1.7%）、40歳代が1人（0.6%）であった。「推し」のジャンル（複数回答可）については、「アイドル」100人（58.1%）が最も多く、次いで「アニメ」57人（33.1%）、「YouTuber」55人（32.0%）、「俳優・女優」33人（19.2%）であった。

「推し」の人数について、最多の回答は「10人以上」で38人（22.1%）であったが、「推し」の人数は、「1人」から「10人以上」まで様々であった（図1a）。

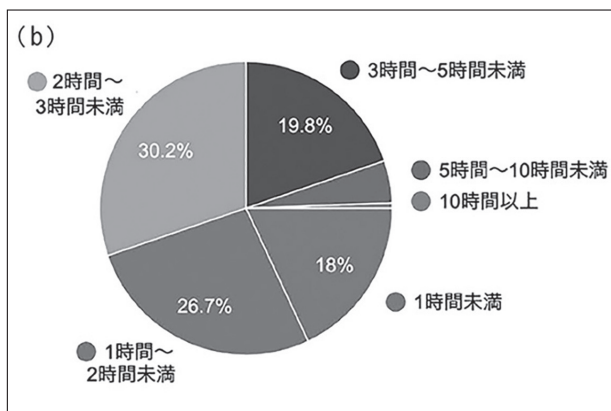
「推し」活動に費やす1日平均の所要時間については、「2時間～3時間未満」が52人（30.2%）で最も多かった。次いで、「1時間～2時間未満」が46人（26.7%）、「3時間～5時間未満」が34人（19.8%）、「1時間未満」が31人（18%）であった。5時間以上の回答は少なかった（図1b）。

「推し」活動にかかる総費用（総収入に対する平均的な割合）については、「10%未満」が71人（41.3%）の回答が最も多く、次いで「10%～20%未満」が51人（29.7%）、「20%～30%未満」が25人（14.5%）であった。30%以上の回答は少なかった（図1c）。

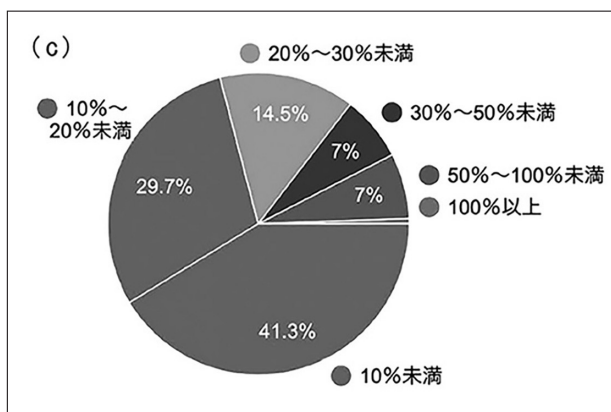
図1. 「推し」活動の状況



(a) 「推し」の対象の人数



(b) 「推し」活動に費やす1日の平均時間



(c) 「推し」活動にかかる費用 (総収入に対する平均的な割合)

2) 「推し」活動の自己肯定感と健康感への影響

「①自分磨きを意識するようになった」などの意欲・自己効力感の4つの質問について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答は全体の約2/3であった。「⑤生きることが楽しくなった」などの充実感の2つの質問については、「あてはまる」だけで全体の約2/3に達した。

「⑦「推し」をみると疲労感が軽減するようになった」の身体的健康感への質問と「⑧「推し」をみるとイライラ感が軽減するようになった」などの精神的健康感の3つの質問について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答は全体の2/3以上であった。社会的健康感に関する「⑪友達が増えた」と「⑬人のコミュニケーションが増えた」については、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて全体の約2/3であった。一方で、「⑫家族関係が良くなった」については、「ほとんどあてはまらない」と「あてはまらない」が全体の約2/3を占めた(図2)。

3) 「推し」活動の状況と自己肯定感への影響との関連

「推し」の人数については、「③勉強や仕事を頑張れるようになった」における「あてはまる」の回答が「1-2人」で89.3%、「3-5人」で75.9%、「6人以上」で67.7%であり、人数が少ない方が「あてはまる」の回答が多かった ($p<0.05$)。「推し」活動に費やす1日平均の所要時間については、「②自分磨き(ダイエット等を含む)を頑張れるようになった」における「あてはまる」の回答が「2時間未満」で57.1%、「2時間以上」で72.6%であり、「2時間以上」の方が「あてはまる」の回答が多かった ($p<0.01$)。

「推し」活動にかかる総費用(総収入に対する平均的割合)については、「①自分磨き(ダイエット等を含む)を意識するようになった」における「あてはまる」の回答が「10%未満」で49.3%、「10%～20%未満」で70.6%、「20%以上」で74.0%であり、費用の多い方が「あてはまる」の回答が多かった ($p<0.05$)。「②自分磨き(ダイエット等を含む)を頑張れるようになった」における「あてはまる」の回答も「10%未満」で53.5%、「10%～20%未満」で66.7%、「20%以上」で82.0%であり、費用の多い方が「あてはまる」の回答が多かった ($p<0.05$)。「③勉強や仕事を頑張れるようになった」における「あてはまる」の回答も「10%未満」で66.2%、「10%～20%未満」で82.4%、「20%以上」で88.0%であり、費用の多い方が「あてはまる」の回答が多かった ($p<0.05$)。さらに、「④前向きな考え方ができるようになった」における「あてはまる」の回答も「10%未満」で73.2%、「10%～20%未満」で76.5%、「20%以上」で84.0%であり、費用の多い方が「あてはまる」の回答が多かった ($p<0.05$) (表1)。

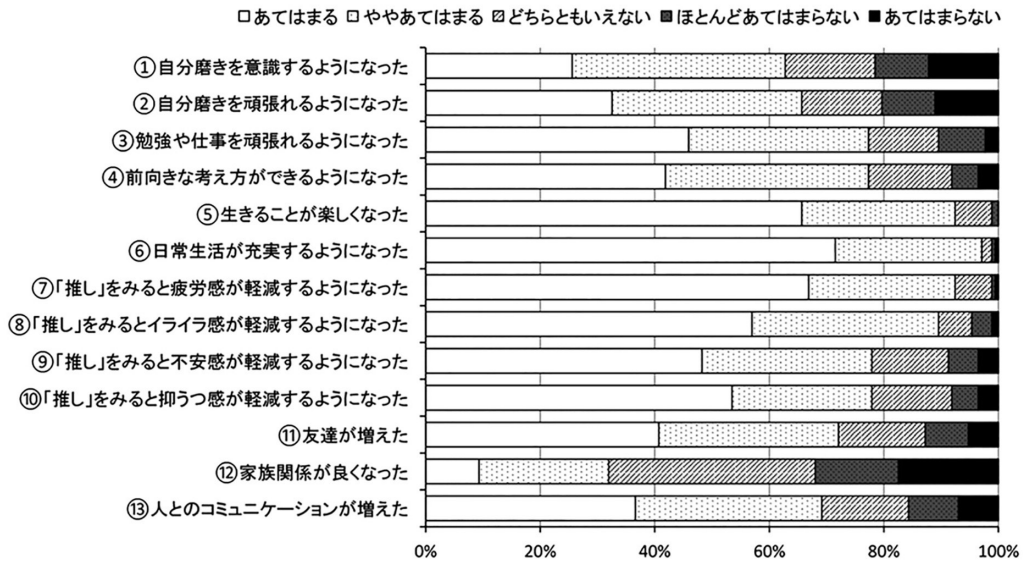


図2. 「推し」活動の自己肯定感と健康感への影響

①～④は 意欲・自己効力感への影響、⑤と⑥は充実感への影響、⑦は身体的健康への影響、⑧～⑩は精神的健康への影響、⑪～⑬は社会的健康への影響。

表1 「推し」活動の状況と自己肯定感への影響との関連

		自己肯定感の質問項目																	
		①自分磨きを意識する			②自分磨きを頑張れる			③勉強や仕事を頑張れる			④前向きな考え方ができる			⑤生きることが楽しい			⑥日常生活が充実する		
		あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない
全体	n	108	27	37	113	24	35	133	21	18	133	25	14	159	11	2	167	3	2
	横%	62.8%	15.7%	21.5%	65.7%	14.0%	20.3%	77.3%	12.2%	10.5%	77.3%	14.5%	8.1%	92.4%	6.4%	1.2%	97.1%	1.7%	1.2%
1~2人	n	37	4	15	38	5	13	50	5	1	44	7	5	50	4	2	55	1	0
	横%	66.1%	7.1%	26.8%	67.9%	8.9%	23.2%	89.3%	8.9%	1.8%	78.6%	12.5%	8.9%	89.3%	7.1%	3.6%	98.2%	1.8%	0.0%
3~5人	n	30	14	10	37	6	11	41	5	8	42	8	4	52	2	0	52	0	1
	横%	55.6%	25.9%	18.5%	68.5%	11.1%	20.4%	75.9%	9.3%	14.8%	77.8%	14.8%	7.4%	96.3%	3.7%	0.0%	98.1%	0.0%	1.9%
6人以上	n	41	9	12	38	13	11	42	11	9	47	10	5	57	5	0	59	2	1
	横%	66.1%	14.5%	19.4%	61.3%	21.0%	17.7%	67.7%	17.7%	14.5%	75.8%	16.1%	8.1%	91.9%	8.1%	0.0%	95.2%	3.2%	1.6%
「推し」活動に費やす1日平均時間	n	44	10	23	44	9	24	56	10	11	56	13	8	68	8	1	73	2	2
2時間未満	横%	57.1%	13.0%	29.9%	57.1%	11.7%	31.2%	72.7%	13.0%	14.3%	72.7%	16.9%	10.4%	88.3%	10.4%	1.3%	94.8%	2.6%	2.6%
2時間以上	n	64	17	14	69	15	11	77	11	7	77	12	6	91	3	1	94	1	0
	横%	67.4%	17.9%	14.7%	72.6%	15.8%	11.6%	81.1%	11.6%	7.4%	81.1%	12.6%	6.3%	95.8%	3.2%	1.1%	98.9%	1.1%	0.0%
「推し」活動の費用(総収入に対する割合)	n	35	13	23	38	12	21	47	12	12	52	8	11	64	6	1	67	2	2
10%未満	横%	49.3%	18.3%	32.4%	53.5%	16.9%	29.6%	66.2%	16.9%	16.9%	73.2%	11.3%	15.5%	90.1%	8.5%	1.4%	94.4%	2.8%	2.8%
10%~20%	n	36	6	9	34	8	9	42	6	3	39	9	3	47	4	0	50	1	0
未滿	横%	70.6%	11.8%	17.6%	66.7%	15.7%	17.6%	82.4%	11.8%	5.9%	76.5%	17.6%	5.9%	92.2%	7.8%	0.0%	98.0%	2.0%	0.0%
20%以上	n	37	8	5	41	4	5	44	3	3	42	8	0	48	1	1	50	0	0
	横%	74.0%	16.0%	10.0%	82.0%	8.0%	10.0%	88.0%	6.0%	6.0%	84.0%	16.0%	0.0%	96.0%	2.0%	2.0%	100.0%	0.0%	0.0%

4) 「推し」活動の状況と健康感への影響との関連

「推し」の人数は、健康への影響の7つの質問項目の中で、統計学的に有意な関連が認められたものはなかった。「推し」活動に費やす1日平均の所要時間については、「⑦「推し」をみると疲労感が軽減するようになった」における「あてはまる」の回答が「2時間未満」で85.7%、「2時間以上」で97.9%であり、「2時間以上」の方が「あてはまる」の回答が多かった (p<0.05)。「⑨「推し」をみると不安感が軽減するようになった」における「あてはまる」の回答も「2時間未満」で67.5%、「2時間以上」で86.3%であり、「2時間以上」の方が「あてはまる」の回答が多かった (p<0.05)。「⑩「推し」をみると抑うつ感が軽減するようになった」の回答

も「2時間未満」で67.5%、「2時間以上」で86.3%であり、「2時間以上」の方が「あてはまる」の回答が多かった (p<0.05)。「⑪友だちが増えた」の回答も「2時間未満」で59.7%、「2時間以上」で82.1%であり、「2時間以上」の方が「あてはまる」の回答が多かった (p<0.01)。さらに、「⑬人とのコミュニケーション(対面での会話もインターネット上の交流も含む)が増えた」の回答も「2時間未満」で59.7%、「2時間以上」で76.8%であり、「2時間以上」の方が「あてはまる」の回答が多かった (p<0.05)。

「推し」活動にかかる総費用(総収入に対する平均的割合)については、「⑬人とのコミュニケーション(対面での会話もインターネット上の交流

表2 「推し」活動の状況と健康感への影響と関連

	健康感の質問項目																							
	⑦疲労感が軽減する			⑧イライラ感が軽減する			⑨不安感が軽減する			⑩抑うつ感が軽減する			⑪友だちが増えた			⑫家族関係が良くなった			⑬コミュニケーションが増えた					
	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない			
全体	n	159	11	2	154	10	8	134	23	15	134	24	14	124	26	22	55	62	55	119	26	27		
	横%	92.4%	6.4%	1.2%	89.5%	5.8%	4.7%	77.9%	13.4%	8.7%	77.9%	14.0%	8.1%	72.1%	15.1%	12.8%	32.0%	36.0%	32.0%	69.2%	15.1%	15.7%		
「推し」の人数	n	49	7	0	49	4	3	43	9	5	44	6	4	37	8	11	20	18	18	35	9	12		
	横%	87.5%	12.5%	0.0%	87.5%	7.1%	5.4%	76.8%	14.3%	8.9%	73.2%	16.1%	10.7%	66.1%	14.3%	19.6%	35.7%	32.1%	32.1%	62.5%	16.1%	21.4%		
	p																							
「推し」活動に費やす日平均時間	n	51	2	1	49	2	3	46	4	4	44	6	4	39	8	7	12	23	19	41	7	6		
	横%	94.4%	3.7%	1.9%	90.7%	3.7%	5.6%	85.2%	7.4%	7.4%	81.5%	11.1%	7.4%	72.2%	14.8%	13.0%	22.2%	42.6%	35.2%	75.9%	13.0%	11.1%		
	p			0.195			0.896			0.536			0.832			0.331				0.454			0.573	
「推し」活動の費用(総収入に対する割合)	n	59	2	1	56	4	2	45	11	6	49	9	4	48	10	4	23	21	18	43	10	9		
	横%	95.2%	3.2%	1.6%	90.3%	6.5%	3.2%	72.6%	17.7%	9.7%	79.0%	14.5%	6.5%	77.4%	16.1%	6.5%	37.1%	33.9%	29.0%	69.4%	16.1%	14.5%		
	p																							
2時間未満	n	66	9	2	66	6	5	52	14	11	52	16	9	46	17	14	18	32	27	46	12	19		
	横%	85.7%	11.7%	2.6%	85.7%	7.8%	6.5%	67.5%	18.2%	14.3%	67.5%	20.8%	11.7%	59.7%	22.1%	18.2%	23.4%	41.6%	35.1%	59.7%	15.6%	24.7%		
	p			0.010			0.336			0.010			0.013			0.005				0.090			0.011	
2時間以上	n	93	2	0	88	4	3	82	9	4	82	8	5	78	9	8	37	30	28	73	14	8		
	横%	97.9%	2.1%	0.0%	92.6%	4.2%	3.2%	86.3%	9.5%	4.2%	86.3%	8.4%	5.3%	82.1%	9.5%	8.4%	38.9%	31.6%	29.5%	76.8%	14.7%	8.4%		
	p																							
10%未満	n	64	6	1	62	5	4	51	10	10	52	11	8	44	16	11	15	28	28	40	13	18		
	横%	90.1%	8.5%	1.4%	87.3%	7.0%	5.6%	71.8%	14.1%	14.1%	73.2%	15.5%	11.3%	62.0%	22.5%	15.5%	21.1%	39.4%	39.4%	56.3%	18.3%	25.4%		
	p																							
10%~20%未満	n	45	5	1	45	3	3	39	9	3	38	9	4	38	6	7	17	18	16	38	7	6		
	横%	88.2%	9.8%	2.0%	88.2%	5.9%	5.9%	76.5%	17.6%	5.9%	74.5%	17.6%	7.8%	74.5%	11.8%	13.7%	33.3%	35.3%	31.4%	74.5%	13.7%	11.8%		
	p			0.204			0.791			0.141			0.316			0.091							0.020	
20%以上	n	50	0	0	47	2	1	44	4	2	44	4	2	42	4	4	23	16	11	41	6	3		
	横%	100.0%	0.0%	0.0%	94.0%	4.0%	2.0%	88.0%	8.0%	4.0%	88.0%	8.0%	4.0%	84.0%	8.0%	8.0%	46.0%	32.0%	22.0%	82.0%	12.0%	6.0%		
	p																							

も含む)が増えた」における「あてはまる」の回答が「10%未満」で56.3%、「10%~20%未満」で74.5%、「20%以上」で82.0%であり、費用の多い方が「あてはまる」の回答が多かった (p<0.05) (表2)。

4. 考察

2020年に全国の10代から40代までの男女4119人を対象として実施された市場調査によると、「推し活」を知っている人は全体の約半数(48.3%)に及んでおり、実際に「推し活をしている」人は全体の20.7%、年代別では10代37.7%、20代26.3%、30代13.1%、40代8.5%であり、頻度に差はあるものの幅広い年代の人が「推し活をしている」という状況であった⁴⁾。さらに、「推し活をしている」624人の「推し」のジャンルは、アイドル57.7%、歌手・バンド44.2%、アニメ・2次元42.1%、芸人・タレント33.5%、声優33.5%、俳優32.7%、スポーツ28.4%であった⁴⁾。また、2022年に全国の20代から50代までの女性5131人を対象として実施された市場調査でも、全体の21.8%が「現在推し活をしている」と回答しており、「推し活をしている」500人の「推し」のジャンルでは、アイドル37.0%、アーティスト30.7%、アニメ17.7%が上位にランクされていた⁵⁾。本研究の対象者は、これら2つの大規模市場調査の対象者と、性別、年齢、「推し」のジャンルにおいて大差ないことから、本研究における対象者のサンプリングは概ね妥当であったと考えられる。

本研究の調査結果において、「推し」活動が最も好影響をもたらしていたのは、「⑤生きることが楽しくなった」と「⑥日常生活が充実するようになった」の充実感と、「⑦「推し」をみると疲労感が軽

減するようになった」の身体的健康感であり、9割以上の人が好影響を感じていた。次に、精神的健康感(⑧~⑩)への好影響を7割以上の人が、意欲・自己効力感(①~④)と社会的健康感(家族関係⑫を除く⑪と⑬)への好影響は6割以上の人が感じていた(図2)。一方、2021年に全国の10代から40代までの「推し」のある男女900人を対象として実施されたweb調査によると、推し活で感じるメリットとして、「人生が豊かになった」45.1%、「人生に充足感を感じるようになった」44.8%、「つらい時に推しに癒される」36.2%、「共通の趣味を持つ人と知り合えた」24.0%、「行動がアクティブになった」21.9%、「仕事や学業などを頑張れる」21.1%の回答結果が報告されている⁶⁾。また、2022年に全国の20代から50代までの「現在推し活をしている」女性500人を対象として実施された市場調査では、「推し活」を通じて得たものとして、「楽しみ」76.2%、「活力・元気」63.8%、「幸せ」63.0%が上位3位の回答結果であり、さらに、「ストレス解消・発散法」62.4%、「癒し」60.4%、「友情」27.0%、「美意識」25.8%であった⁵⁾。本研究並びにこれら先行調査の結果から、「推し」活動を実施することが人生の充実感並びに身体的・精神的・社会的な健康感にプラスの効果を及ぼすことが明らかになった。

さらに本研究では、「推し」活動の状況(人数、時間、費用)が「推し」活動のプラスの効果に影響を及ぼす可能性について分析を行った。その結果、9割以上の人が好影響を感じていた充実感(⑤と⑥)については、「推し」の人数、「推し」活動に費やす時間あるいは「推し」活動の費用の違いによる影響の差は認められなかった。一方で、意欲・

自己効力感 (①~④) については、「推し」活動に費やす費用が比較的多めの方が、費用が少なめの人よりも好影響を感じる頻度が高いことが明らかになった (表1)。「推し」活動の費用については、本研究では総収入の20%未満の回答者が全体の71.0%であり、2021年の全国web調査でも月1万円未満の回答者が全体の78.4%であった⁶⁾。そのため、多くの方は大金をつぎ込むことなく「推し」活動を実施しており、その状況で充実感を感じていると言えるが、意欲・自己効力感については、比較的多めの費用をかけることと関連が認められた。また、身体的健康感 (⑦)、精神的健康感 (⑧~⑩) と社会的健康感 (⑪~⑬) については、「推し」活動に費やす時間が比較的多めの方が、時間が少なめの人よりも好影響を感じる頻度が高いことが明らかになった (表2)。「推し」活動に費やす時間については、本研究では1日3時間未満の回答者が全体の74.9%であり、2022年の市場調査でも1日3時間未満の回答者が全体の89.6%であった⁵⁾。すなわち、多くの方は1日数時間以内で「推し」活動を実施しており、その状況で充実感を感じていると言える。一方で、身体的・精神的・社会的健康感については、比較的多めの時間をかけることと関連が認められた。以上をまとめると、「推し」活動の活動状況に関わらず、「推し」活動を行うことで充実感を感じることができる一方で、意欲・自己効力感と身体的・精神的・社会的健康感については、「推し」活動の活動程度に左右される可能性が示された。

5. おわりに

本研究における10代から40代の男女を対象としたアンケート調査の結果、「推し」活動をするようになってから、意欲・自己効力感や充実感を含む自己肯定感が増し、身体的、精神的並びに社会的な健康感についても増えたと回答する人が大部分であった。また、「推し」活動に時間やお金をある程度かけた方が自己肯定感や健康感への影響が大きかったが、充実感への影響はみられなかった。このような本研究の結果から、「推し」活動を行うことによって人の心や身体にプラスの効果をもたらされることが明らかになった。

本研究の調査にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。なお、本研究の立案、調査、分

析、ならびに論文執筆について、原田、小松、加納は同等に貢献した。本研究に関連して著者らが開示すべき利益相反はない。

6. 文献

- 1) 猿渡 輝也：新しいアイドルとファンの応援の形～若者に広がる「推し活」とは何か。2020/09/08. <https://dentsu-ho.com/articles/7489> (2022年2月19日アクセス)
- 2) 横川 良明：人類にとって「推し」とは何なのか、イケメン俳優オタクの僕が本気出して考えてみた。サンマーク出版, 2021.
- 3) 田島 悠来：メディアが描く「推し活」—メディア報道と表象の分析から。帝京社会学, 35: 87-115, 2022.
- 4) 株式会社ジャストシステム：『推し活と消費に関する実態調査』。2020年6月30日。 <https://marketing-rc.com/report/> (2021年3月21日アクセス)
- 5) パナソニック株式会社：20～50代女性「推し活」に関する調査。2022年5月20日。 <https://kyodonewsprwire.jp/release/202205181360> (2022年9月18日アクセス)
- 6) 株式会社ネオマーケティング：全国の13～49歳の男女を対象に聞いた「推し活に関するアンケート」。2021年8月10日。 <https://neo-m.jp/investigation/3075/> (2021年8月6日アクセス)